

# 経験に謙虚であれ。 新しいものに関心を持とう



目標にする人は誰ですか、と聞かれることがあります。以前にも書きましたが、私の愛読書は『大人の流儀』、作家の伊集院静さんが好きですね。それから、ミュージシャンの佐野元春さんも大好きです。還暦を過ぎてますます格好よくなる。佐野さんは「経験に謙虚でいたい」とおっしゃっていて、感銘を受けました。

若い頃は情熱や感性を頼りにがむしゃらに前へ出ますが、年齢を重ねると経験に物を言わせて押し切ろうとしがちです。そうでないと若い人になれないことの裏返しでもあるわけですが、デビュー40周年を迎える佐野さんはその経験に謙虚でいたいと言うのです。心にしっかり刻み込みました。

いくつになっても、若い人への敬意は忘れたくないものです。何を言ってるんだ、と頭ごなしに押さえつけるのではなく、耳を傾ける余裕を心に持ちたい。若い人には若いなりやり方や流儀があるはずで、そこに面白いことやいいことがあれば自分の中に取り入れる心の柔軟性を持つことが大人の品格というものだと思います。

前座の頃ですから、20年以上前のことです。携帯電話が主流の時代で、寄席の楽屋で仲間とプロ野球の途中経過を見ていました。ジャイアンツびいきの桂文朝師匠がいらしたので「巨人が勝ってますよ」と伝えると、「ケータイで分かるのかい」と興味津々で目をキラキラさせるんです。

師匠は古典落語の本格派でした。大変失礼なことに、まだ若かった私は師匠を毎日同じことばかりやっている年寄りだと思ふところがあったのですが、新しいものに関心を持つ姿に「噺家はこうでなくちゃいけない」と悟りました。「噺」という字は口に新しいと書きます。経験や年齢に関係なく新しいものに関心を持つという噺家の姿勢を心に刻んだ強烈な印象です。

タピオカドリンクが流行っています。ラジオ番組である専門店が話題に上ったのですが「知らないんですか。もうしばらく前からですよ。すでに古いかも」なんて言われてしまいました。

分からないことは恥ずかしながら聞く、調べる。世の中には新しいコトやモノがどんどん生まれています。心をスポンジみたいに柔らかくしてどんどん吸収したいものです。年齢に関係なく!

## 三遊亭鬼丸 (さんゆうてい・おにまる)

1972年生まれ。長野県出身、さいたま市在住。故三代目三遊亭圓歌に弟子入り、97年に初高座。

2009年、NHK新人演芸大賞入選。10年、真打に昇進して「鬼丸」を襲名しました。

FM NACK5「GOGOMONZ(ごごもんず)」に出演中です。